



※ま〜ブルとは？
創心会デイサービスで使用している
施設内通貨のこと。単位：ま〜ブル

創心会で使用されている施設内通貨の活用法のお知らせ

創心会ま〜ブル宝くじ当選発表！
評判上々につき！夏季宝くじも企画進行中！



最高当選額
1000 ま〜ブル
当選者

創心会リハビリ倶楽部 吉備
犬飼 道義さん



当選者インタビュー

- Q 当選したま〜ブルの使い道は？
A まだ決めていません。珈琲をみんなにおごろうかな？
- Q 当たった時（今）の気持ちは？
A 最高です！日頃の努力のおかげだと思います。
- Q 夏にも行われる予定ですが参加しますか？
A 買いたいです。その時の気分で枚数は決めたいと思います。

運営事務局からの感想

今回初めての取り組みでしたがとても好評でしたので途中で増刷する事になりました。宝くじを購入するために、ご利用様がま〜ブルの獲得の為に頑張られる姿が多くみられました。また、抽選会に向けてご利用様の期待感が高まって購入していない方にも楽しみにして頂きました。告知期間が短かったこともあり行き届かない点もありましたが次回は、抽選会場の雰囲気より身近に感じて頂けるように工夫していきたいと思います。



一般社団法人『民間事業者の質を高める』
全国介護事業者協議会（通称民介協）中国ブロック主催 研修会のご報告

1月26日、岡山後楽ホテル鶴鳴の間にて、一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会（通称民介協）中国ブロック主催の研修会が行われました。創心会は事務局として初めて研修会の運営を行わせて頂き、風の強い寒い日にも関わらず、岡山県南をはじめ遠くは鳥取・米子から、計26事業所、56名の方にご参加いただきました。研修会は、3つのテーマで講演が行われ、今後の参考になったとの感想を多く頂きました。その後の懇親会でも事業所同志の交流を深める事ができ、大変有意義な研修会となりました。



心
創
から



倉敷芸術科学大学 × HEART SWITCH 株式会社 ハートスイッチ
デイサービスから社会参加へ

特集 **利用者からの社会参加**
産学連携 iPad プロジェクト
～当事者の声を伝える為に～

- 01 創心会デイサービスの取り組み
- 02 グループホーム：第一回心燃会
- 03 ま〜ブル宝くじ当選者発表
- 04 民介協研修会のご報告

倉敷芸術科学大学 × HEART SWITCH 株式会社 ハートスイッチ

特集

利用者からの社会参加

産学連携 iPad プロジェクト
～当事者の声を伝える為に～

学生とご利用様が 連携を重ねて得たもの

1月22日、倉敷芸術科学大学柳田宏治教授のクラスにて産学連携 iPad プロジェクト最終プレゼンテーションに向けての意見交換会が行われました。創心會のご利用者様3名（60代左麻痺・60代左麻痺・50代頸椎損傷車椅子）も同席し、学生の自由な発想から生まれた iPad を障がい者でも使いやすくするためのツールのアイデアについて、障がいを持つ当事者の立場から意見を語られました。今回のプロジェクトを通して、学生側は「固定概念を持ちすぎている。」「見間違いな所もあって、実際に使ってもらってわかる事があった。」との感想をもっており、ユーザビリティテストを行うにあたり身体に障がいを持つ当事者の方から意見を貰うことで新しい視点に辿り着いているようでした。また実際のデザインに関しても、利便性や形状といった面で具体化されており、共同開発の効果がうかがい知れました。ご利用者様側からは「プロジェクトを通して市場調査を行ったり、若い世代の考え方を知るきっかけとなった。興味を持つものを与えてくれるのはありがたい。」「プロジェクトでなくても若い人と話すのは必要。」との声があり、世代を超えた意見交流にメリットを感じられているようでした。

1歩踏み出す為に 支援者としてできること

創心會ご利用者様のオピニオンリーダーである岡村誠次郎様からは「我々と同じように社会へ出て行きたいと考えている利用者は多いが、背中を押してくれる人が必要。ハートスイッチ*は強烈に背中を押してくれた。そして、こうして社会参加への活動を続けられる影にはリハスタッフの補助があってこそ。モチベーションをキープできているのは彼らの存在。」という障がい者の社会参加へのキーポイントになる意見も頂くことが出来ました。創心會ではこれからも、社会参加を目指す方の支援のため、グループ会社を含め地域との連携を強化することでノーマライゼーションを推進していきます。

※創心會グループには、ご利用様がリハビリを終えた後、その先の目標を叶えるための支援をするグループ会社があります。ハートスイッチは、障がいを持つ方の社会参加から、希望者には就労までを支援していく創心會グループ会社です。

産学連携iPadプロジェクトのこれまで

- 2012年初夏 ハートスイッチ iPad 関連事業立ち上げに伴い、障がい者用のUD(ユニバーサルデザイン) ツールの必要性を感じる。倉敷芸術科学大学へツールの共同商品開発を打診。賛同を得る。
- 10月 ユーザー理解のための講義（ご利用者様1名参加）
不便さ調査・ユーザー（ご利用者様）及び、療法士へのヒアリング
- 11月 利用状況の理解のための講義
使用実態観察・インタビュー・UDマトリックス・デザイン・シナリオ・デザイン・コンセプトの確認・アイデアスケッチ
- 11月30日 中間プレゼンテーション（ご利用者様3名参加）※内、1名はiPadのテレビ電話を使用
ユーザーと作業療法士からの評価・ユーザビリティテスト
- 1月22日 最終プレゼンテーション（ご利用者様3名参加）



【学生が考案したデザインのラフスケッチ】
(一部)



◀使用感を確かめるご利用者様

01 創心會デイサービスとグループ会社の連携

創心会リハビリ倶楽部 水島の取り組み デイサービスから社会参加へ繋ぐ 病床からの決意

徳山敏章さん(66歳)が創心会リハビリ倶楽部水島を利用し始めたのは、約3年前。脳出血を発症後、病院で目が覚めたときから社会復帰を願われていた徳山さんは、退院後に利用するデイサービスは「リハビリ特化型」の事業所をとくに希望されていました。病院からの紹介で、自宅から少し離れていながらも、送迎のある創心会リハビリ倶楽部水島へ通所を開始。徐々に体が動くようになるにつれ、社会復帰への想いはますます大きなものとなっていきました。

デイサービスからの一歩

「ブログを始めたい。」その思いをデスタッフに伝え、行動を起こした徳山さん。創心会リハビリ倶楽部水島スタッフは徳山さんの願いをグループ会社であり、障がい者の就労支援を行っているハートスイッチに伝えました。その後、ハートスイッチとのアセスメントの末、元々パソコンが堪能であった徳山さんは、パワーポイントを使ったプレゼンを行うことが目標になりました。ハートスイッチとの出会いを経て徳山さんは、これまでに創心会リハビリ倶楽部水島にて3回以上プレゼンを行っています。その活動は、スタッフ・利用者様にも周知されはじめており、回を重ねるごとに観客も増えています。次の目標は、パワーポイントの構成の質を上げ、いつの日か大勢の観客の前で講演活動を行うこと。その目標のため、ハートスイッチ・創心会リハビリ倶楽部水島・徳山さんの連携は続きます。また、徳山さんは、2月5日ハートスイッチの新規事業である療法士育成の為に「ADL評価モデル」の講師としてのデビューも決まっております。社会参加活動の範囲は一層広がっています。



創心会リハビリ倶楽部水島 週2回
創心会訪問看護(リハビリ) 2回 利用
徳山 敏章さん

02 グループホーム：第一回 心燃会

グループホーム「心から」「心から撫川」心燃会

1月16日、グループホームの事例発表会、その名も「心燃会」が開催されました。

開催目的

1. 他職種（看護・介護・ケアマネ・療法士・福祉用具）からの客観的な意見によるケアにおける専門性の向上
2. 情報共有によるチームケアの質の向上
3. 目標の設定と達成によるモチベーションの向上
4. 他職種（看護・介護・ケアマネ・療法士・福祉用具）との交流

管理者山本さんのコメント

「ほとんどのスタッフがパートの方で、発表が決まっかなりプレッシャーを感じていました。しかし、自信を持って日頃の取り組みを発信してもらうことができるよう関わりをもったことでモチベーションが上がり、発表終了後には各々の言動にも変化がみられました。今後もこのような場を設けて、グループホームの取り組みを広く知って頂きたいです。」

管理者森さんのコメント

「私は現場が本当に好きなんです。ご利用者様と関わることで、自身のモチベーションが保たれていると言っても過言ではありません。自分を必要と感じて下さることに喜びを感じており、ご利用者様には心から感謝しています。」
今後は、スタッフの育成にもっと力を入れグループホームのパワーアップを図ると宣言されていました。



▲当日の会場の様子